会越国境・守門岳

破間川本流から八十里越

佐藤（耕）

【日時】　2006年11月4日（土）～5日（日）
【メンバー】L佐貫　棚橋　大野　**佐藤（耕）**

まこと錦秋である。東北は秋田の画家・福田豊四郎描く秋ほど紅に染まっていないのは、表土の薄い会越の植生のせいかとおもったが、早や紅葉の盛りは過ぎたらしくて黄が勝っている。よく見渡せば空が広いのは木々が透いてしまって、もう裸身を誇るブナの向こうの冷たい空には、初冬を思わせる猪の子雲さえ浮いている。

紅葉は、水に「映えて」こそ美しい。それ以上に沢に「生えて」うれしいのは…。

風景への感傷はどこへやら、どっか水野久美に似てる佐貫さんは「東京マタンゴ娘」になりました。東宝の怪奇幻想映画「マタンゴ」はこの夏渋谷で再映見たけど、「食ったものに食われる」というのは、水木しげるの「猫又」に近いのよね。おっと脱線。

早々幕として、焚き火の煙は上がった。大野君がしつらえたのは、木下さん伝授の三又吊り下げビリー。焚き火を十二分に活用するあり方に感服したという。うむ、単純な仕掛けだけど、これは素晴らしい。ビリー本来の機能を活かし、燃料のあり方を変えるだけでなく、食料計画を一変させるものになるってもんだ。こうした文化の交わりが、トマの域を広げてきたんだろう。なにせ、トマの「冬でも生米文化」は、もともと鈴木さんとの出会いで、テジちゃんが「これはうまい！」ってんで導入。その後「東京マタンゴ娘」の「つまみ文化」の流入によって今日のスタイルとなったのはご存知のとおりだ。

そうしたトマの食文化にあって、孤高の「ぶっこんじゃえ鍋」。2002年秋の佐渡の沢の宴の翌朝、スナックやつまみなどの残り物を使ったうどんに由来はするが、もとはといえば1990年の八久和川完全遡行に遡る。4泊5人で酒も尽きたこの行程で、食当を任じられたのは私ひとり。軽量化のため、高野豆腐・切干大根・桜海老などに、まだ油っけの抜けない日向くさいのが大の苦手なハンバーグ王子・テジちゃんは参った。

こうした乾物で賄う組み立ては実は山屋の王道で、最近70歳でエベレスト登頂を果たした三浦雄一郎さんの「エベレスト・キムチ鍋」にその例が見られる。こちらは残り物じゃなく干し貝柱やホタルイカなどを金かけたものを、生キムチと鍋にするというバージョン。多様な動植物乾物を使うのは、長期または冬季の食事の組み立てとなる。

ところが「長期冬季バージョン」に対して、「オートキャンプ型」もありえる。

秘蔵のブレンド調味料で煮立った鍋に、大根半分を短冊に切ったもの、そして豚肉の塊800gを入れる。適当に煮たら塊を切って鍋に戻す。あとは葱やニラなどの香味野菜を煮込んで食い、次には白菜を加えて赤唐辛子とともに胡麻油を熱したものをかけては食らい、最後は煮込みラーメンを入れてすする。鍋とはこのように百変化なのだ。

オートキャンプでは凝った料理が紹介されている。だがやってごらんなさい。結局のところ「あなた作る人、私食べる人」で奥方にはまったく評判が悪い。じぁあ自分で焼けばとバーベキューが登場するが、うまかったためしがない。同じ串でも素材によって焼ける温度が違うからだ。

みんないっしょに食え、食材の調理度のコントロールが簡単で、かつ味付けが多様。これは「ぶっこんじゃえ鍋」をおいてほかない。

水炊きにすれば、いわばポトフ。　醤油を入れれば「けんちん汁」、味噌なら豚汁、カレー粉は当然カレー、ウドンだの春雨だの主食系炭水化物まで投入すれば鍋だけで大満足である。

カヌー屋たちの飯に似たようなモノがある。奴らはかなりの人数で河原で食うが、ドラム缶にニボシをなん袋も叩き込む。ダシをとって引き上げたのに醤油をたらしてビールのつまみだ。その汁に丸ごとキャベツを入れ、豚肉の塊を入れ、汁が真紅になるほど七味唐辛子をぶち込んでは食らう。具が尽きたら飯をぶち込んでは卵をかき混ぜ、おじやとして〆る。これを「バクダン」というらしい。

では「長期冬季バージョン」と「オートキャンプ型」とは相容れないものかといえば、その中間に位置するものはペミカンではないかと思う。ペミカンについては常識ということでここには書かないが、月報168号巻末の「女王様の食卓」のキムチ鍋がラードは使わないにしろ　ペミカンに似た中間だといったら、わかってくれるだろうか。

腹を満たしてやおら辺りを見渡すと、いつしか月映えであった。葉を落としたブナのシュルエットが枝まで見えて、月に磨くとはこんな夜をいうのだろうなと、月の霜に何度も見入っては酒を酌んでは草鞋納めを堪能した。

翌朝は田代平付近から八十里越に出た。秋の八十里越は一度踏んでみたかった道だ。わずかだったがそこを歩き、湿原で往く秋を惜しんだ。

【グレード】1級

【行程】11/4 五味沢林道(8:00)～破間川本流(9:00)～幕場(13:00)

11/5幕場(7:00)～八十里越(8:10)～田代平(9:10)～林道(11:30)

【地図】守門岳